

新年のご挨拶

特定非営利活動法人 a l a クルーズ
理事長 澤野親司



可児市文化創造センターala
館長兼劇場総監督 衛 紀生



新年明けましておめでとうございます。alaクルーズ会員の皆さん、そして日ごろより活動をご支援下さいます皆さまにおかれましては、新しい年を健やかに迎えになられたこととお慶び申し

上げます。また、昨年クルーズが賜りました暖かいご支援に対し、厚く御礼申し上げます。さて、alaクルーズの昨年を振り返りますと、4月より新しい役員体制でスタートし、運営や活動も順調に進めることができました。これもひとえに皆さんのご協力の賜物と感謝申し上げます。しかし、一部活動において情性や慣れによる緊張感の低下など、改善すべきことが顕在化したことも否めないところです。一方、alaクルーズのパートナーである（公財）可児市文化芸術振興財団は、一昨年事業が高く評価され、文化庁より特別支援施設に採択され、全国から注目される施設となり、各地より多くの視察があるなか、そこで活動するalaクルーズも注目されています。従って、その施設に相応しい組織を目指していくことが求められます。また、今年2月には「世界劇場会議国際フォーラム2015 in 可児」がアーラで開催される予定で、今後益々アーラの知名度も高まり注目されてきます。そのような環境の中で活動できることの喜びに感謝しつつ、活動のエネルギーとして、なお一層自己研鑽に努めて行けることを願っています。皆さまにとってこの一年がご健勝にて、楽しく充実した年になることを心より祈念し、年頭の挨拶とします。

アーラが「国の特別支援施設」になって2年目があと3ヶ月で終わろうとしています。皆さん、明けましておめでとうございます。本年も相かわりませず宜しくお願い致します。来年度は「国の特別支援施設」の3年

目。折り返し地点になります。真価が問われる年になります。昨年6月に英国・リーズ市に行って調整、合意してきた英国の地域劇場の雄であるウエストヨークシャー・プレイハウス(WYP)との提携が、来年度から動き始めます。まずは人事交流から始まって、数年後、できれば東京オリンピックの文化プログラムとして、可児とリーズに両国の俳優が滞在しての国際共同制作を実現したいと思っています。まだまだやらなければならないことが沢山あります。私も1月26日で満68歳。もうそろそろゴールが近いのですが、どうしてもやらなければならないことが山ほどあります。限界というものがありますので、困ったものです。それでも、一步一步、高みを目指して仕事をしていきます。アーラの劇場経営のパートナーとして、今年もお世話になりますが、重ねて宜しくお願いします。



2014 イルミネーション “光の庭”



9月18日(木)第1回イルミネーションプロジェクト会議が開催されました。今回のテーマは何にしましょう?ということで『光の庭』に決定。「どんなのにしましょうかね」庭園への入り口からバラの花、蝶々が飛んで…図面を起こして製作! イルミネーションを作り始めた7年前は「バラなんて難しくてとても無理」「却下」だったけど、今は何でもOK! バラの花なんてちょいちょいって出来ちゃう(本当はとても手が



込んでてやっぱり難しい) 作業分担しながらアーチ道・バラの花・蝶々を製作。今回の作品はなかなか細かくて製作に2カ月もかかってしまいましたが、今までの作品の中では一番良い出来でスタッフ一同大満足です。今年は職場体験でアーラに来ていた向陽中学校2年生の2名が手伝ってくれました。11月24日据え付け、でもこの日は通電出来なくて確認は3日後でした。今年は11月22日(土)午前9時から点灯式申し込みの受け付けが始まりましたが、数



日ですぐ埋まってしまったくらいの大人気です。年々、イルミネーション点灯の感激が口コミで広がりをみせています。誕生日であったり、結婚記念日であったり、彼からの贈り物であったり、またいい思い出ができること、alaからのプレゼントです。今年の初日にスイッチを押す方は岐阜市より家族で来られた松尾さんで、6回目の結婚記念日だそうです。点灯時間が近づくると2才の妹はスタンバっているのに、お兄ちゃんは照れてかスイッチを押すのを嫌だと言いだしました。10、9、8、7・・・のカウントダウンの声が響き始めいよいよ

と思った時、後ろから走ってきたお兄ちゃんがつい押してしまったスイッチ。なんと、カウントダウン3秒前! アーラはパッと明るくなり素晴らしいイルミネーションが浮かび上がり、観客からは拍手がおこりました。alaのイルミネーションは来年2月14日(土)まで点灯されます。冬の夜のアーラが楽しみです。



点灯式後の松尾さん

上すぎない?

OKちょうどいいよ



雪の中のイルミネーション



手作りランプをつくろう!

2015年 1月10日(土) 15:00~17:00

可児市文化創造センター美術ロフト

昨年大好評だった、紙粘土とLEDを使ったオリジナルランプを作るワークショップを今年も開催します。透明のプラスチックカップに紙ねんどをかぶせて好きなものを自由にデザイン。LEDライトのキットを使って自分だけのオリジナルのランプを作ってみませんか?





びわ湖ホール視察研修

10月12日(日)、台風19号の接近が気がかりな中、バスは滋賀県大津市に向けて早朝6時半に出発し、滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホールに予定通りに到着しました。琵琶湖を一望できる白い大きな建物、まずその大きさと広さに圧倒されました。ロビーにはクラシックなグランド

ピアノとパイプオルガンが飾られています。1,848席という木張りの大ホールで、午後から上演されるオペラ『リゴレット』に先立って行われるワークショップに、クルーズも参加できるというのでとても楽しみになりました。ワークショップはびわ湖ホール館長の山中隆氏の挨拶の後、演出家の田尾下哲氏と舞台装置を担当された幹子・S・マックアダムス氏によるトークで始まりま



ました。両氏がそれぞれの仕事に就くようになった経緯、このオペラにかけた意気込みや芝居をどうやってデザインしていくかのプロセスなど内容は多岐にわたりました。田尾下氏は、「ヴィクトル・ユーゴーの原語を読むしかない、翻訳はもはや翻訳者の解釈でしかなく自分の解釈にはならない。音楽も同様に楽譜を読む。大事なことはみんな原作の中に書いてある」。マックアダムス氏は、「季節・時間・雰囲気などの要素に加え音響の問題もある舞台空間を、どのように組み立てて動かすのかを考える。80年代迄は装置に絵を描く事にお金が使えたのに」と笑いも交えながら。「リゴレットは自分のことを“わし”というのか“わたし”と訳す存在か」「娘のシルダはどのように成長してきた女性なのか」「この局面で使う楽器はオーボエなのかチェロなのか」等々。両氏の会話からは、ほとぼしる若さと舞台にかけるエネルギーがピンピンに伝わってくるのでした。照明にも緻密な光の計算がされているとい



ます。素の状態に明かりが当たるとどう変わるのかという

ことで、舞台の正面に並べられた登場人物の衣装にスポットライトが当てられました。その瞬間、衣装がまるで魂が入った様な、人の体温が伝わってくるような、今にも動き出しそうな陰影を醸し出し、その空間にリアルな世界を創り出したのです。ここまでのトークを聞いて、せめて一言のセリフでも聞きたいと願わなかった人はいないでしょう。ワークショップが終了し、びわ湖ホール内にあるレストランで昼食をとり、職員の方に施設を案内してもらったりしているうちに開場の時間になりました。お客様の対応は外部委託で行われていると



いいです。一人ひとりが姿勢を正し、インカムを装着して係り間の連絡を取り合っていて、席の分からないお客様には席の配置図を示し、持ち場を離れません。その劇場に応じたやり方があるのでしょう。ホールを歩いていると湖畔を歩いているような開放感に包まれる素敵な所でした。同時に、アールの青い芝生を駆ける子どもたちの姿、若者やシニアの顔が見えるアールもやっぱり素敵だと思うのでした。上演中のオペラに後ろ髪をひかれながら琵琶湖ホールを後にして、バスは第二の目的地、近江八幡へ向かいました。陽差しもあり心配された台風はまだ西の方をノロノロしていたようです。秋の日は短く“近江八幡てんびんガイド”の中村さんに案内されて少し足早の散策でしたが楽しい一日となりました。





ala クルーズフロントスタッフ研修

フォローアップ研修を終えて

11月16日(日)星乃もと子氏をお迎えして、新人の方を含め13名参加してフォローアップ研修が行なわれました。午前中は スタッフルームに於いて座学。フロントスタッフは“表方”として、舞台裏方・出演者・観客の方々全てに関わっている大切な“要”であることを再認識しました。次に開場準備から終演までの流れと各ポジションの役割を確認。その中でスタッフ同志の連携プレーの必要性・重要性を具体的に教わりました。昼食はカテリーナで、財団の山本局長・坂崎係長らと交流会を兼ねて美味しく頂きました。午後は主劇場で、市民事業『コーラスダイアリー』をOJT方式(実務に携わりながらの知識技術の習得)



で研修。いつものフロントと違いクルーズ全員やや緊張しながらお客様をお迎えしました。各ポジションの動き方やお声掛の仕方等を直接指導して戴きました。クルーズにとって本当に貴重なOJT研修となりました。最後にスタッフルームに戻り、フロントスタッフとしての身だしなみ(化粧や髪)についてお話しをいただきました。今日の研修が、今後の市民事業支援に生かせることを期待し 又、今後もフロントスタッフとして、常に向上心を持って笑顔でお客様をお迎えしたいと思えます。(A)



茅野市NPOサポートC来館

平成26年11月29日(土)10時に茅野市のボランティアグループNPOサポートCの18名を乗せたバスが可児市文化創造センターに到着しました。3年前はalaクルーズが訪問、今回はアーラの視察にお見えになりました。まず、創造スタッフルームでNPOサポートCの理事長が紹介とお礼の言葉を述べられ、alaクルーズの澤野理事長が歓迎の言葉のあと、アーラの坂崎係長の案内で主劇場・音楽ロフト・映像シアターなどを見て回られました。

「主劇場はオペラ座のようで素晴らしいですね」「椅子から出てくる冷暖房にびっくりです」「椅子のナンバープレートの傾きが、前後の椅子の区別を示しているのわかりやすい」、映像シアターでは「映画の実行委員会はどのような人がやっていますか?」「チケットはいくらですか?」など、各部屋で熱心な質問と説明が飛び交っていました。案内の途中でイルミネーションの点灯も体験していただきました。一階の見学の後、創造スタッフルームで質問・説明タイムに入りました。支援活動、ワークショップの活動などを説明しました。NPOサポートCの皆さんからは「市・財団・市民との意見交換会はありますか?」「教育現場とのかかわり合いはありますか?」などいろいろな質問を受けました。その後レストランで雑談をしながらの交流会が行われました。



編集後記

あけましておめでとうございます。この歳になると全く1年が早く過ぎてしまいます。新年には今年こそはあれをしよう!これをしよう!と思うのですが、思うだけで終わってしまうことばかりです。でも何をするにしても、人生の残された時間を有意義に使って充実した年にしたいなと、願っています。それで、今年は何を?うーむ。実はこれから考えます。早くしないと今年も又すぐ終わっちゃうよね。みなさんもぜひ目標をもって新しい年をお過ごし下さい。ご多幸を祈念いたします。*(O)



ala クルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

